

## 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を振り返って

宮崎県立〇〇〇〇高等学校・附属中学校  
芸術科音楽・中学音楽科 教諭 〇〇〇〇

### ○ はじめに

平成 27 年度の九州音楽教育研究大会宮崎大会を機に、文科省教科調査官の臼井学氏の御指導を毎年仰ぎながら県高校音楽部会研修担当として、新学習指導要領の読み込み、理解を続けてきた。今回、令和元年度の資質・能力育成研究会（授業研究部門）のパイロット教員として授業実践、提案授業をする貴重な機会に恵まれ、この五年間の研究を生かしたことに感謝したい。

### ○ 授業研究にあたり事前に理解しておくべきこと

#### ①新学習指導要領における音楽科の授業【留意点】

- ・音楽活動を通して行われること。
- ・児童生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせることができるような指導計画になっていること。
- ・目標に示す資質、能力（知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等を育成できるようにすること。
- ・そのために「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようにすること。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。

#### ②「主体的・対話的で深い学び」とは

「主体的な学び」⇒ 学びの見通しをもち、学びを振り返り、次の学びにつなげる。

「対話的な学び」⇒ 他者との対話などにより、自分の考えを広げたり深めたりする。

「深い学び」⇒ 各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする。

☆「深い学び」のカギは、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方、「見方・考え方」。深い学びとは、教科の本質にせまる学び。

#### ③高等学校芸術科（音楽）の「見方・考え方」とは

感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を幅広く捉え、自己のイメージや感情、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。

- ・音楽に対する感性を働かせること
- ・音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で幅広く捉えること
- ・捉えたことを、自己のイメージや感情、生活や社会、文化的・歴史的背景などと関連付けること

#### ④音楽科における知識の種類

- ・覚えればわかること → 子ども自ら生み出せない、主に教えてもらう知識
- ・聴き取ればわかること → 音楽を聴いて気付き、発見によって得られる知識
- ・感じ取ればわかること → イメージや感情の動きがある知識
- ・学習の過程を経てわかること → 音楽の学習を通して、自分で構築する知識

○ 研究授業（11月28日）について

・題材として、「アンサンブルの味わい、未知なる音楽の創造、発見」～クラシックギター三重奏曲を通して～（クラシックギターの基本奏法～三重奏～創作）を設定した。新学習指導要領A表現（2）器楽、（3）創作に関する内容である。

・具体的な【育成したい資質・能力】を次のように設定した。クラシックギターの基本奏法の学習を通して、①減衰する音を内的心情により繋ごうとすることで、フレーズ形成能力、レガートな歌心を身につけさせ、②簡単なコード演奏で、音楽の持つ自然な和音機能性（和音による力学）を感じさせ、様々な楽曲の伴奏が可能であることを理解する。③他者との調和を意識することで器楽合奏（アンサンブル）の表現力の豊かさ、合奏の楽しさを味わえる。楽曲の音楽を形づくっている諸要素の基本的な働きを再確認し、それらを変化させることで未知なる音楽の創造が可能であり、他者の様々な意見を集め音楽の構成や形式を意識しながら、新しい音楽を創造する技能を身につけさせる。

・授業を終えた感想。①生徒の潜在能力の高さに驚くとともに、もっと生徒を信用して任せる所は任せるべき、生徒の主体性を見守る教師の姿が必要である。②初めて開発した題材でとても不安だったが、生徒たちの主体的な学びが十分に見られたものとなり、オリジナルな題材開発も今後続けるべきである。③教師のひとこと、何気ない発問の質が多分に影響する。④普段からの生徒との関係、信頼、様々な積み重ねあつての「主体的・対話的で深い学び」である。

○ 終わりに

「主体的・対話的で深い学び」は、近年の学び方だと勘違いされている方が多い。音楽は古来より、特に合唱・合奏では自然と「主体的・対話的で深い学び」となる分野である。各学校で行われる校内合唱コンクール等の取り組みは、まさに「主体的・対話的で深い学び」である。

今までにどの教科でも、心に残る素晴らしい授業、生徒を引きつけてやまない授業、名物先生と言われた先生方の授業には「主体的・対話的で深い学び」が共通して自然と内在していたことは確かである。特に注意すべきことは、「主体的・対話的で深い学び」が目的化しないことである。「主体的・対話的で深い学び」は授業改善の視点であり、授業を捉え直すことで、生徒達が生涯にわたって能動的に学び続ける「自立した学習者」としての資質・能力を育むことを求められていることを忘れてはならない。